

32番のソナタ、出色の出来ドキリ。こう捉えこう表現したかったとの言い分、説得力抜群。大事にあたためてきた構想の結実。沢山のことを教えていただき心躍る。

1楽章、タフなテクニックとメンタルが要求されそう。有無を言わさね太刀捌き、微塵の躊躇いなし、自信に満ちたパフォーマンス。けたたましく駆け巡る迫力、延べつ幕なく飛び跳ねるパッセージも何のその。微に細に精通、クレバーな特徴づけキラリ、雑然としたものをスッキリ交通整理。何が大事なものをキレイに整頓、すべての音符を手なずけて調教。昂然たるスタンス、ワクワクしながら追従するだけ。

2楽章の主題、素っ気ないほどシンプルで穏やかで素直。クリアでピュアなエッセンス狙いではない、聴き手に傾聴力を強制するメッセージ性もない。1変奏、少しづつユッタリと重なり合う音々、手織りヒモのPVを見ている如く。2変奏、気高い絡み合いの関係性、後引く粘着性はなし。次第に高揚、次を見越して気分ジャンプアップ。3変奏、作曲者らしからぬジャズのノリ、雰囲気に入り気持ちの解放、繰り返し部での念押し。4変奏、暗に籠るトレモロと力強い輝きのコントラスト。重いつぶやき、ひたむきな祈り、敬虔なザワメキ。そして、明るくクリアなザワメキ、誠実実直な真っ向勝負。ネガがポジへの転化、際立ち。5変奏とコーダ部、音のウネリ、これでもかこれでもか。丁寧に慈しむ様に振り返る。先走って結果の予測はシャットアウト、音楽を積み重ねることに終始。過不足ない際立ち、すべてジャスト・フィット、スゴイ迫力でピアノ全体が鳴り響く。全力投球のピアニスト、コチラは新たな体験、有難く平伏す。

2014年の29番を皮切りに、2年毎に30番、31番と。ライフワークの一環、1曲ずつ着実に、2020年の32番はコロナ禍でとりやめ、今回満を持す。29番の4楽章のフーガ、バリバリとした素敵な演奏を聴いた時、この勢いなら32番の1楽章の大丈夫、こちらを先にとやんわり薦めたような。でも、譲れない真四角な性格を垣間見る。

念願完結、これでオシマイと引いて収めるヤワな気性と思えぬ。ならばあわよくば次への期待、ディアベリ変奏曲 (Op.120) か6つのバガテル (Op.126)。前者の第32変奏、作曲家の生々しい肉声の吐露にゾクゾク、浪花節的鼻歌、ドロロン閻魔君。後者は振り返りの総括、5番のト長調クアジ・アレグレット、こちらはノスタルジックな領分。いや、お気に入りのブラームスさんにも3曲のソナタもあるし……。

ベートーヴェン：ピアノソナタ 28番 イ長調 Op.101

ベートーヴェン：ピアノソナタ 32番 ハ短調 Op.111

ベートーヴェン：ピアノソナタ 31番 変イ長調 Op.110

(アンコール)

ベートーヴェン：ピアノソナタ 8番 変イ長調 Op.13「悲愴」第2楽章 変イ長調

ベートーヴェン：バガテルイ短調 WoO 59「エリーゼのため」
